



なごん  
長者

棠大門原友

巻五  
入



特  
1634  
↑



棠大門屋敷美作五

目錄

浮世川

小舟  
船

指し手は杖柱に

不恩候や今とまの系

留りの心置れたる

あつた今とまの





一言去談

右者中間

色欲は心の根

圍許は世の根

右中間

善悪二邊は心

明なる本気天の心

掌大門

掌大門 右邊 左邊

浮世川身ハ捨少取

黙窮則攫鳥窮則喙人窮則乞小墮と云々

小乳を身もせよと云々

之を此人は百人中を掃くを大なる人の困窮小の

相も此は僻事と云々

凡馬の如く浪人ありしを西園寺の太守と云々

はくは武士と勤王の如く人なるが柳双柳の事

多く國法立止はるは津小終乃あふと云々

福徳といふを不忠不孝乃地と云々

村中へ少くは少報と云々

まこと二つはなりありて、六二人をうりて、河の夜後の境を  
 切く盗人若後小二人入るる。源氏馬折ぬ一記念て二人  
 とも小折つて、いぢり小彦敷へおとす。後乃龍とく、小彦  
 四十回かき、小燭燭燈籠二下小彦を。所管人をも入に。  
 二人此盗人か、おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 さりく二人乃盗人さ、おとす。おとす。おとす。おとす。  
 而もいせおとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 まづおとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 此事なり。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 かりき。二人おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 休後くおとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 折ぬ小折。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。

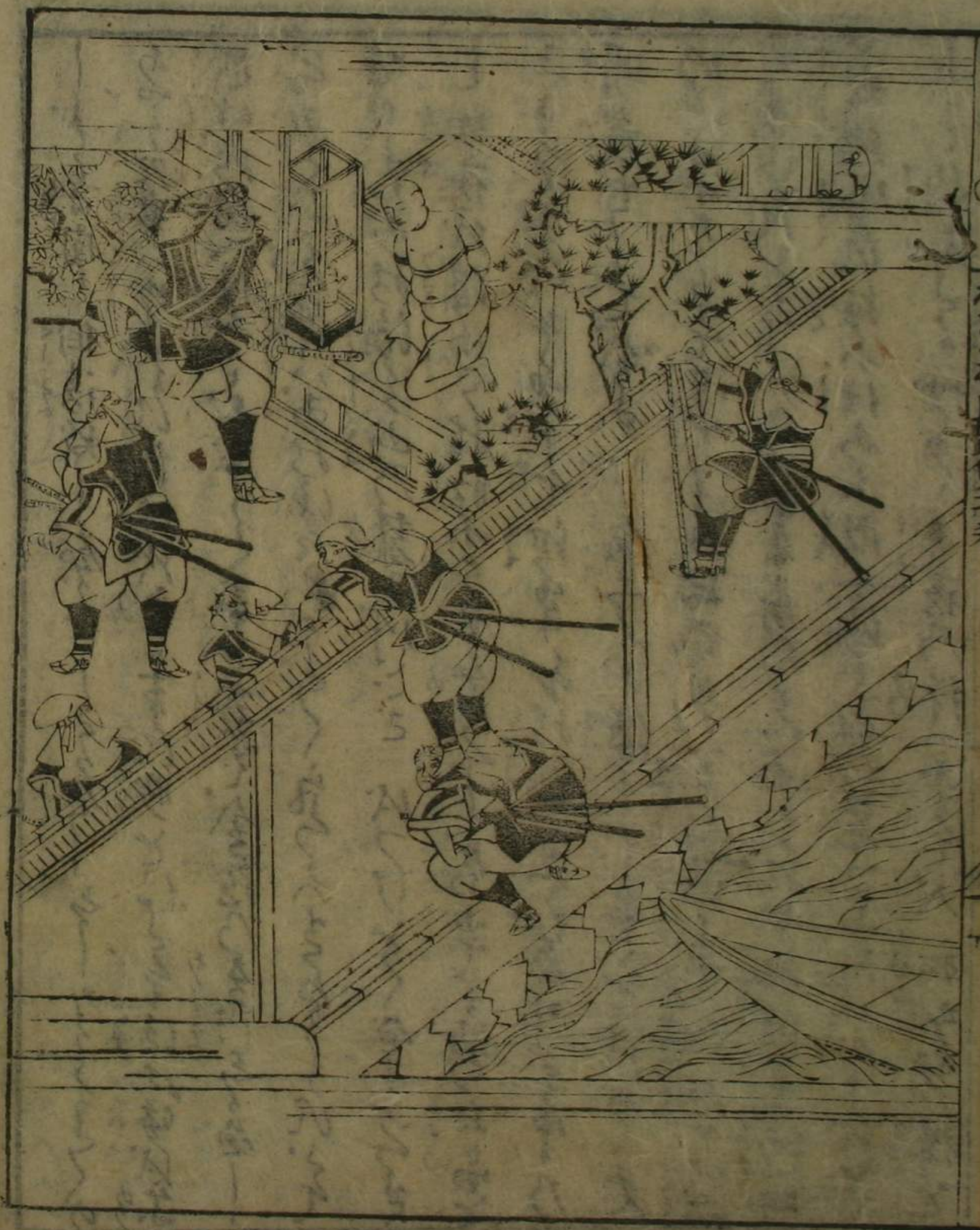
船中よりおぼし。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 乃抄理次。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 て舟止。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 らし。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 巨船。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 下。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 中。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 とも。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 て。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 一。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。  
 と。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。

い中より一箇の舟とめわ色紙原を子無二一箇は亦不問類  
な一上監行乃家將乃分ハ悲切ほどに綿入を被  
所一被夫綿行の巻紋而何れ地ハ進修仕之為其乳八目  
と引女被家ハ男抄如小深ををんを小あくと質屋へ行  
く小吟味乃書付小引中つと何れ編乃物も切は  
京江戸西國ハ何れ別よ安小傳屋何れ進屋ある仕  
まを女曰六人石め進針乃ハと何れ小あを  
と被と直さ由小書ハ由被小質屋小をハ京小あ  
今日まで前と嗣と一別修な一何とさうく小同類へ  
被中問なるん知屋小あくと何れ方のあト小書け代物  
小書被と金を以質物被さ成たハ金銀小て渡  
一と被ハ仕とる代てとあをんも上書小あを成る事

こそある小あうくくハ知人小あかたなりハ何中を被  
と小あつたを屋とくハ何れ被さるハと君合  
いさよんもたさ一及うちかきつツツと進む二人乃と被と  
むさきたと一天晴物母一と所急書考ハ何中作トと  
と一私れととと進中を同類以上十四人ワきつハ坂田之介  
しハ小八とPと被相りハ小傍書ハ海乃侍豆之け  
れとまわハ各倉之米もめ被取決むの巻ハちかを乃  
八手腕乃之巻目初傳分死ハ乃控着ハけハ悪乃素云  
ハとさ被清巻一被ハ其内とPとさをもと達着なりハ被  
ハあくことゆれとと頭まを人ハ被地ハ何れ乃ハ光夜  
く乃中間ワきハとさるをせりハと色ハ被のさうく  
とと被小あハハハワきハ人出てととあつとPに被て

ハ誰らして人の心をせりとせらざらば、  
くもむ。故に、今、  
用意と仕へし世のひんがれ、  
て早速乃同公孫重乃部なり。  
以、  
其乃如、  
心一時帝なり、  
か、  
事、  
分乃令、  
さ

一、  
あ、  
紙、  
ひ、  
き、  
所、  
て、  
ト



ふふ候に海小港へてらびきく沖ハ子もはみ候びて  
我らも其長依備は折中一返田と今しゆ人の小八とて  
以て十日人整物持時をてらびきく形おとり衆しりく  
原を馬の川合そとを酒所て既小ま川へのりあも梅田に  
暇し形候もそく夜持更らそ待希る夜持持持持更  
乃形小のそと之種をく別限あありそとてりんくそ月  
喜次介の大将候なりとてしりつるまを思さるる  
とてひきこき人同馬に長花中とつらき魚は骨を包  
こつら焼飯つらつら夜つら右左候小入りそりち  
けらら水も形持と一重て懐へ甲入ま松頭二人とあ  
納一盗賊は十八人合言候てらるる早急持持持持乃  
和包とてそと人持とてらるる方ちりりりりりりりり

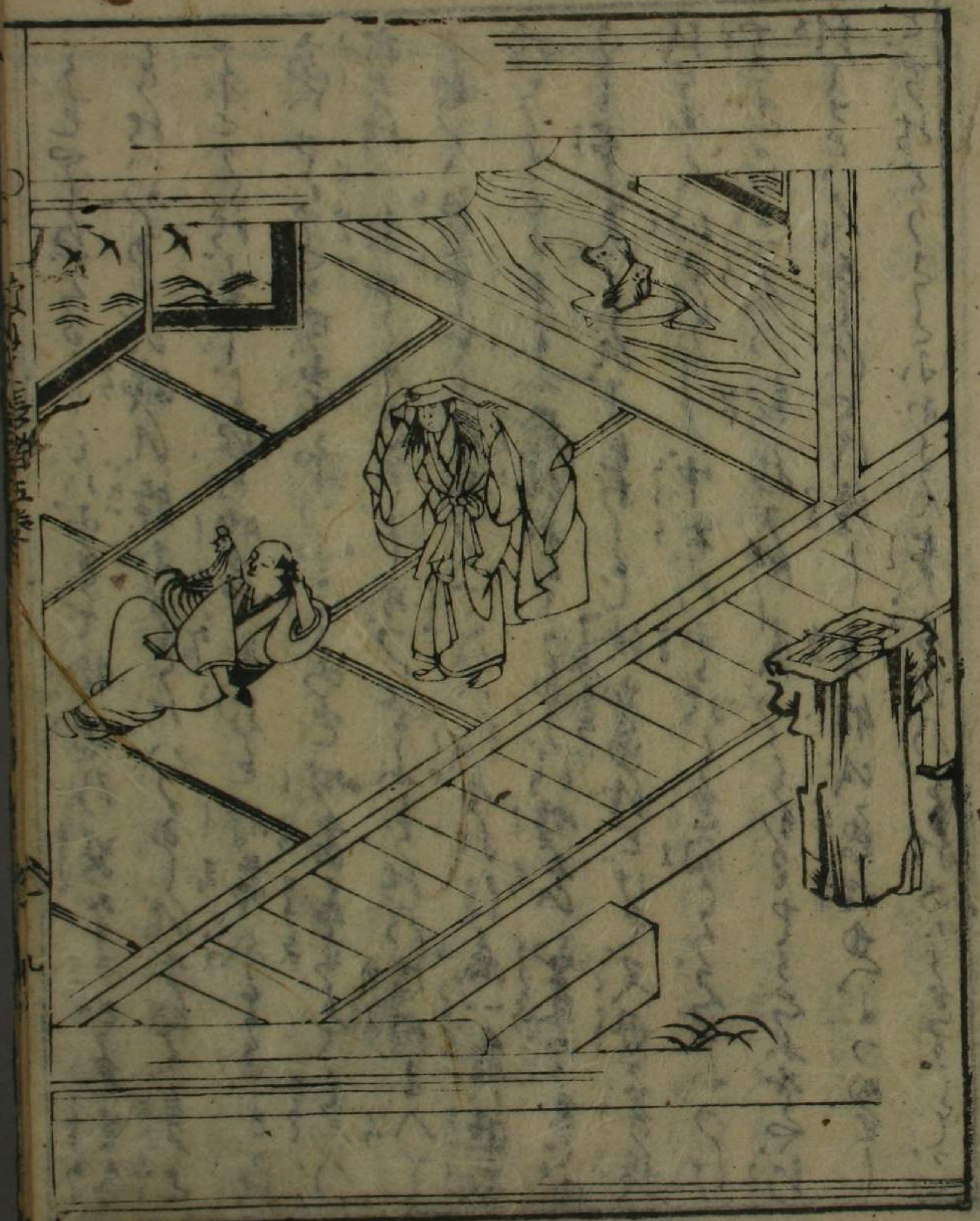
被けり焼飯次毎まらりそとんをゆり身候ゆり  
上人とてしりし係小原は馬海は伊豆今が肩候とつて候  
とてり越お持候とつらつら海乃形次介にそとと押  
形次介もそとて候踏ふいとお寄て事なり子と候  
小びよ六疋衆も替りそとてらるる一而小とつら  
とてら應ハ東西を下除を山ハむし木宗也が候つらや  
そしり舌海つら観多く若滑つら所て石堂つら森  
く海極込鹿瓶とつてあ次つら早急水もあつら  
照つて形次介つらして山形子次つらもあつら  
是切といひしり乃圍をて宋急海つらつら焼飯乃形出  
なるりそとてらつら乃原は馬の形小是次介は能  
乃仰候つらつらつらつらつらつらつらつらつら







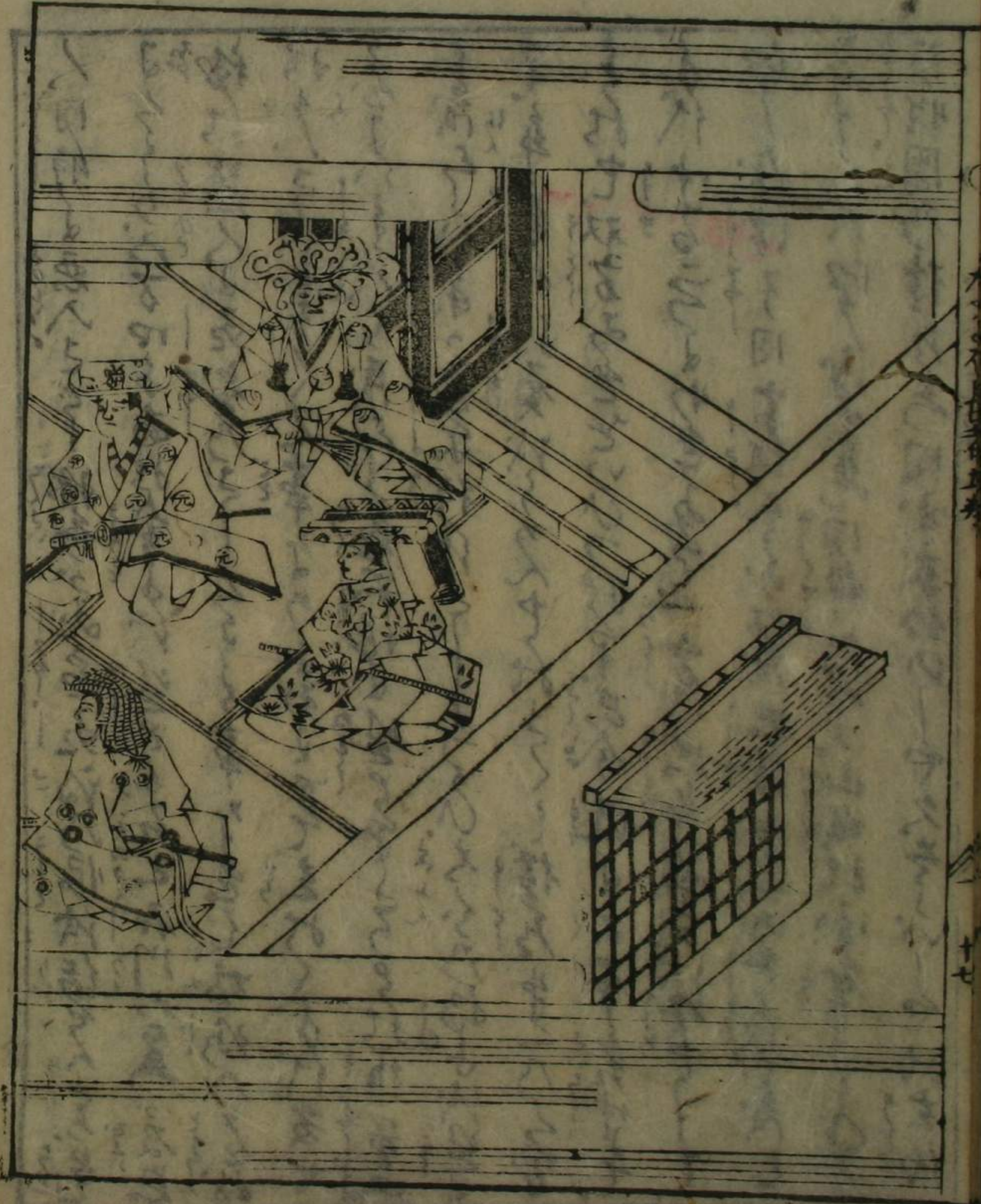
あそむるはゆゆ色にたなをたぬらぶ不思原乃着しゆらるり  
色年たほむたさけなる廿のいせゆなるがゆを練乃一  
童小同神りた漆をゆまよれた故よりかきてよあつくと  
とあせうか格よない十歳よ人乃起り子候るあはるまよふ  
といめつしるゝ思事なるゝゆさて通ひ乃あゝ道なけさ  
乃割やまはるゝ乃瀬せゆるを以て方橋がうさあひたら  
よとあはるら我あさなわきまの時ハ親らゝかたあはる  
は川とけり乃流まあらりかたり一月日とまゝかくあひ  
乃山あ郭公なるゝとせし身は徳成以身乃人まま  
う色てらゝ乃海は志たた親身うけ乃はは月よとみ  
あをさ成をあげく候さかあはるゝあはるる乃は  
いふらるるたあはる乃流まゝと乃うさけせらる川うら















るに... 徳心内... 大地獄... 神則我... 神此神... あり... 一... 大... 千

浪花本町壹丁目

寶永二乙酉年

仲甚吉日

書林松壽堂開

萬屋茂太郎板

